

# GCN通信



講習会での増澤さん

## ～理事の紹介～

増澤 直(ますざわ ただし)さん

地域自然情報ネットワーク会員の皆様 こんにちは。  
副理事長を務めさせていただいている増澤です。現在は自然環境保全や自然再生、生態系評価解析等のコンサルティングを中心に仕事をしています。

おかげさまで私たちのNPOも昨年来様々なプロジェクトが始動し、私たちの持っている自然環境に関する研究技術やノウハウを生かして社会貢献できる体制が徐々に整いつつあります。今年が事業展開という意味でも、足場固めという意味踏ん張りどころであろうと思っています。

ところで、つい「非営利法人」<sup>※</sup>とか言っちゃいますが、まず、自分たちの組織の名前は間違えなく覚えましょう。

ともあれ、なによりも参画してくださる会員の皆様のネットワークあればこそ有効に活動できる組織であると痛感しています。私も微力ながらお手伝いして参りたいと思いますのでこれからどうぞよろしくお願いいたします。修羅場の年度末をお迎えの大多数の方々、体調には気を付けて乗り切ってください。 (※事務局注：正解は、特定非営利活動法人です)

## ～最近の動き～

今年度後半から次年度にかけ実施企画中の案件は創刊号にて紹介いたしました。  
その後、具体的な動きがあったものは次のとおりです。



### 1) 環境ベースマップフォーラム2004の主催

創刊号の案件リストに記した「電力中央研エコトーププログラム発表会での講演」という漠然とした企画案件が、とんとん拍子に進み、当会主催のシンポジウムという驚くべき企画に発展しました。先日MLにてご案内しましたとおり、4月23日 東京国際フォーラムでの実施に向けて宣伝・準備中です(詳しい内容は当会ホームページにて)。これは、松林理事が中心となって以前より開発が進められてきたエコトーププログラム(GISによる環境類型区分図作成支援ツール)のArcView版を電力中央研究所が商品化し、そのプロモーションにあたり電力中央研究所からその教育支援も含めて当NPOに打診がきていたものです。

当NPO主催といっても、実質は電力中央研究所のお力によるところが大きいのですが、NPO主催のシンポジウムなら出席OKと、環境省からも発表者を招くことができました。NPO組織の信用価値が認められた第1号の案件、といえるかもしれません。

### 2) 自然再生計画におけるGIS活用マニュアルの作成および実務者向け講習会の開催(釧路湿原を題材として)

「釧路湿原を題材として自然再生計画作成に関するGIS活用実習を行い、実務者、行政職員、NPO等の指導者育成に努め、汎用性の高い実習テキストを作成する」という内容で、河川環境管理財団の平成16年度河川整備基金助成金の申請を行いました。

このプロジェクトの背景には、「自然再生における生態系保全計画の実務者や市民活動家向けの講習会は極めて少なく、これに関する地理情報システムの具体的操作法の解説書は国内に皆無であり、自然再生計画の質的向上を妨げている」という事情があります。そこで、「河川流域空間データ整備がほぼ完了している釧路湿原を題材に、現地視察、パソコン操作、保全計画策定の実践的実習と汎用性の高いテキストを作成し人材の育成を目指す」ことを目的に、助成金を申請しました。第1の目標は、8月終盤の日本生態学会(開催地：釧路)に合せて現地見学会、シンポジウム、講習会などを実施することです(「」内は申請書からの引用)。

～コラム～ （このコーナーでは皆様からの話題提供を募集しています。）

### 地生態学(Geoecology) って？

実際の自然は、見た目ほど単純なものではありません。そこには、地形、地質、土壌、気候、植物、昆虫、動物、人などの様々な要素が複雑に絡んでいます。その一つ一つを単独で見ただけでは、決して自然の全体像を把握することはできません。そこで、いろいろな要素をひっくるめて、まとめて把握して、何故そうになっているのかを考えようというのが、地生態学なのです。

例えば、東京近辺にも、春先になるとカタクリがその可憐な花を咲かせます。このカタクリ、かなり特徴的な分布を示します。東京近辺では、ほとんど北向きの斜面でしか見かけません。なぜでしょう。

カタクリから目を離して、少し上を見てみましょう。そこは、雑木林になっていて、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹が目立ちます。秋になると紅葉し、やがて葉を落とします。そして明るくなった林床に、春先の太陽をいっぱい浴びて、カタクリが一斉に花を咲かせます。こうした雑木林は、江戸時代から人が生活の場として作り上げてきた二次林です。

もう一度視線を下に戻します。非常に微妙な差ですが、カタクリの分布しているところは他に比べてちょっと緩やかになっています。そこは、とても小さな扇状地のような場所で、地下水が豊富で、夏場の地中温度の上昇が、比較的抑えられています。夏場、カタクリは球根だけでじっと地中の暑さに耐えているので、そういう環境が必要なのです。

なんだか、いろいろな繋がりが少しずつ見えてきましたが、まとめてみましょう。

カタクリは、ずっとずっと昔、地球が寒かった頃、北の方からやってきた植物たちの一つ。そして、だんだん暖かさが戻るとともに、限られた場所に追いやられました。それが、北向き斜面の、夏の地中温度があまり上がらない、しかも、春には陽がいっぱい射し込む、そういう場所だったというわけです。いわば、氷期のレリック（生き残り）なんですね。そしてもうひとつ、人間の活動で明るい二次林が広がったことも、生き残る原因になったのです。

こうやって見てみると、東京近辺のカタクリは、その環境を含めて、貴重な存在なのです。これまでの見方では、レッドデータブックに載っている希少種(数の少なさ)ぐらいしか、保全の対象となりにくかったのですが、地生態学的に、足下の基盤環境からその繋がりをきちんと把握して、そして何故そうになっているのかを考えることで、地域の自然を解釈することが、これからの保全活動のカギになりそうです。



(理事 辻村千尋)

### ～年会費についてのお知らせ～

当会では、会員の皆様から年会費をいただいております。年会費の有効期間は、1月から12月までの1年間とし、毎年11月頃に翌年分を請求させていただくことになります。このニュースレターは2004年分会費納入済みの方々に配信しております。年次途中入会の方も、初年度は1年間に足りなくとも規定の年会費をいただきますがご了承ください。なお、当2004年の特例措置といたしまして、昨2003年中にご入会の方は、入会時にいただきました会費の有効期間を入会時から、本年12月末日までといたします。

### ～編集後記～

爆弾の飛んで来るのが先か、地震が先か！？  
物騒な世の中ですが、気にしておれぬ年度末。  
一番怖いのはカゼで寝込むことだったりして。(吉田)

編集・発行 NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局  
〒198-0052 青梅市長淵 7丁目372の2-710(吉田方)  
TEL/FAX 0428-24-5120 (IP)  
URL : <http://www.boreas.dti.ne.jp/~kent/gcn/>  
吉田 : PONTAX@e-mail.ne.jp  
辻村 : chihiro-tsujimura@nifty.com